

キャベツべと病情報第1号

平成21年11月13日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

11月上旬現在、東三河地域でキャベツべと病の発生が多いほ場を確認しています。べと病に弱い品種では注意が必要です。降雨が続く等今後の天候によって発生が助長される場合があるので注意しましょう。

2 病徴

外葉から下葉に発生し、葉脈間に淡褐色、不定形の病斑を生ずる。病斑は不揃いで、形は葉脈に区切られた多角形のものもあるが、それほど明瞭ではない(図1左)。病斑はややへこんだ褐色壊死斑が互いに融合し、葉裏には、汚白色、霜状のかびが生えている(図1中央)。

病斑は、ややへこんだ黒色壊死斑が多数みられる場合もある(図1右)。

べと病が疑われるときは、病葉を切り取り、数日以上室温で湿室(高い湿度を保った)状態にしておくと病斑部から汚白色、霜状のかびが生えてくることでべと病と判断できる(図2)。

3 発生生態

発病適温は10~15℃で、日中24℃以下、夜間8~16℃のとき発病が多い。

病原菌は被害株中で卵孢子、菌糸の形で生存し、気温が3~25℃の範囲で降雨があると分生子を形成して空気伝染する。

感染条件は、9時間以上の葉面のぬれで、このぬれ時間が長引くほど感染率が高まり、発生が増加する。

種子伝染することも考えられる。

本菌には寄生性の分化があり、キャベツを侵す菌はブロッコリー、カリフラワー、ハボタンを侵すが、ダイコン、ハクサイ、カブは侵さない。

4 防除対策

- (1) 急激に発生が広がる場合があるので、発生が心配される場合は表から予防効果のある薬剤を選定し散布しましょう。
- (2) 発病が見られた場合は表から治療効果のある薬剤を選定し防除しましょう。
- (3) 次作の伝染源になるので、発病した株は抜き取り、圃場外持ち出し適切に処分しましょう。

表 キャベツべと病に対する主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	主な効果
ベフドー水和剤	500倍	収穫14日前まで	3回以内	予防
ダコニール1000	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	予防
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	治療・予防
ワイドヒット顆粒水和剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	治療・予防
ヨネポン水和剤	500倍	収穫7日前まで	5回以内	予防
フェスティバルC水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	治療・予防



図1 病斑 葉表(左) 葉裏(中央) 黒色壊死斑(右)

図2 霜状のカビ